



## 事業実績シート

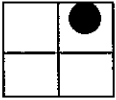

### 2 実績結果

事業費の推移		前々年度決算	前年度決算	当該年度決算
事業費（円）		2,696,781	8,359,915	31,127,629
(財源内訳)	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	14,102,746
	市町振興共同事業助成金	1,348,390	2,500,000	3,000,000
	一般財源	1,348,390	5,859,915	14,024,883

成果(活動)指標	指標名	指標設定の考え方	単位	区分	前々年度	前年度	当該年度
	①	受入民泊軒数	各種講習会等を通して受入民泊軒数の継続又は増加させる。	本、人	目標	50	100
実績					81	130	146
目標達成率(%)				-	130%	112%	
②	教育旅行に係る営業回数	受入体制を整備すると同時に誘客に向けたPR、情報発信をおこなう。		目標	2	3	4
				実績	2	3	4
			目標達成率(%)	-	100%	100%	

### 3 事業の振り返り

必要性の点検	(1) 公共性評価		<div style="text-align: center;">                     必需 (+)                        私益 (-)                      公益 (+)                      選択 (-)                 </div>
	(公益性) <input checked="" type="checkbox"/> 広く社会に利益をもたらすサービス <input type="checkbox"/> 特定の個人又は集団のためのサービス <input type="checkbox"/> 上記以外の中間的なサービス	(必需性) <input checked="" type="checkbox"/> 住民生活に必要不可欠なサービス <input type="checkbox"/> 住民生活に必要不可欠ではないサービス <input type="checkbox"/> 上記以外の中間的なサービス	
	(2) 行政関与の妥当性評価 妥当性低い                      妥当性高い (-)                      0                      (+) 	(3) 廃止又は休止した場合の影響 (影響内容、程度等) 体験型観光事業は、コーディネート業務及び受け皿組織の両面から成り立っており、営業や旅行会社との調整は地域住民のみでは難しく、今後も五島市・(一社)五島市観光協会及び各地区体験交流協議会等で事業を実施していく必要がある。	

## 事業実績シート

### 4 有効性の点検、効率性の点検

有効性の点検	(1) 成果(活動)指標の達成状況		(左記結果となった理由)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果(活動)指標の実績値は、目標をほぼ達成した <input type="checkbox"/> 成果(活動)指標の実績値は、目標を下回った		(一社)五島市観光協会及び各地区体験交流協議会の士気が高まってきた。	
	(2) 成果(活動)指標を向上させるため、事業内容や実施方法を工夫する余地			
	<input type="checkbox"/> 工夫の余地はない <input checked="" type="checkbox"/> 工夫の余地がある		(工夫の内容・工夫の余地がない理由)	
	実施予定 期 日	平成 29 年 4 月	市内 11 地区に及び各地区協議会の事務局を自治体(各支所・各出張所)が受け持っているが、実践者の士気を高め、より地域の取組にするため、事務局を地域住民へ移管していきたい。平成 29 年 4 月から 3 地区において地域住民へ移行する。	
	(3) 類似事業との統合		(統合可能性のある類似事業名、統合不可能な場合はその理由)	
<input type="checkbox"/> 類似する事業と統合可能 <input type="checkbox"/> 類似する事業はあるが、統合不可能 <input checked="" type="checkbox"/> 類似する事業はない		類似する事業はない。この事業を拡大していく必要がある。		
効率性の点検	(1) 民間委託化等の妥当性評価		(具体的内容)	
	<input type="checkbox"/> 民間委託化や非常勤化等を検討すべき業務がある <input checked="" type="checkbox"/> 民間委託化や非常勤化等を検討すべき業務はない		体験型観光事業は、コーディネート業務及び受け皿組織の両面から成り立っており、営業や旅行会社との調整は地域住民のみでは難しく、今後も五島市・(一社)五島市観光協会及び各地区体験交流協議会等で事業を実施していく必要がある。	
	(2) 受益者負担の適正化等による歳入確保		(判断理由と可能な歳入確保内容)	
<input checked="" type="checkbox"/> 既に受益者負担の見直し等で歳入確保を実施済み <input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し等で歳入確保は可能 <input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し等での歳入確保は困難		歳入確保の方法として、受入料金の 10% を(一社)五島市観光協会が受入れ、更に 10% を各地区協議会が受入れ、自主財源の確保に努めている。		

### 5 今後の方向性

必要性の点検から	<input type="checkbox"/> 事業休止	<input type="checkbox"/> 事業廃止	<input type="checkbox"/> 民営	<input type="checkbox"/> 事業終了(完了)	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施(予定)時期					
有効性の点検から	<input type="checkbox"/> サービス水準低下		<input type="checkbox"/> サービス水準向上	<input type="checkbox"/> 類似事業との統合	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
効率性の点検から	<input type="checkbox"/> 委託化	<input type="checkbox"/> 非常勤化	<input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し	<input type="checkbox"/> 広告料収入等の新たな歳入の確保	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持
実施予定時期					
具体的内容	平成 27 年度から本格的な体験交流型による修学旅行受入が始まったが、平成 28 年度はその約 2.5 倍の修学旅行生が来島した。平成 25 年度から 3 年間で受入体制を整えてきたが、民泊軒数をはじめ体験インストラクターの人数が十分でないことから、平成 29 年度は修学旅行の受入をしつつ継続して受入体制の充実を図っていきたい。また、個人や団体観光客の体験交流型の観光商品「五島五感塾」を更に情報発信していきたい。				